

記

國際労働會議ヲ傍聴シ日本労働代表及對ノ決議ヲ各國委員ニ提出シ議場ニ於テ大波瀾ヲ惹起シタルカ結局警告件ニテ日本代表ヲ承認スルニトナリタリトテ當時ノ狀況ヲ詳述シ身ヒ企所ニ各區労働界ノ權威ヲ網羅シ居タルヲ以テ夫々面談スルノ光荣ニ浴シタルカ諸國労働者ノリーダート稱スル者ハ何レモ相當ノ老年ニシテ吾々ノ如キハ彼レヨリ見ルトキハ全ク小供扱ヒニセラレタル感ハアリ

歐洲ハ目下伊太利ヲ始メ各國共ニ第二インターナシヨナルカ金盛ニシテ大体ニ於テ穩健派カ多イカ其ノ労働運動ハ目下不景氣ノ為孰レモ不成功ヲアツテ且其產主義ノハカ尙成リノ勢カヲ以テ抬頭シ國

粹党カ之ニ猛烈ニ反對シテ居ル

日本労働運動者ハ一般ニ感傷的ノ急進的ヲアルニ及ニ英佛ハ國家主義的保守的ヲ常ニ打算的ヲアツテ労働運動ニ餘リ熱カ無イ様ニ思ハレタ英佛伊自瑞等ノ各國ヲ通過シテ來ルカ自方トシテハ結局日本ノ労働運動ハ日本人カ又イオテアツテ決シテ諸外國ニ範ヲ執ルノ不可ナルヲ悟以テ今後ハ第二インターナシヨナルニ依ツテ労働運動ヲ進メタイト思フテ居ルカ當今ハ密ニ修養スル考ヘテアル

尚往復共ニ下級海員ト共ニ起居シテ海上労働問題ニ就テ多クノ改善スヘキ事情ヲ察見シメカテ將來此ノ方面ノ研究モシテ見タノ下思ツテ居ル云々